

財団法人骨髄移植推進財団 第 2 回 広報推進委員会 議事録

日 時 : 平成 21 年 10 月 20 日 (火) 18 : 30 ~ 20 : 10

場 所 : 廣瀬第二ビル 地下会議室

出席委員 : 太田陽一委員、佐々木利和副委員長、武市英雄委員、立岡ふじ美委員、
松崎泰弘委員、八木澤昌二委員長、横尾和博委員

欠席委員 : 吉田寿哉委員 (五十音順)

事務局 : 平井常務理事、大久保広報渉外部長、千葉、加賀美、五月女

〔 議 事 〕 (敬称略)

1 . これまでの検討項目と内容について

第 1 回委員会及び第 1 回・第 2 回分科会で説明、検討されてきた内容について、大久保広報渉外部長から報告が行われた。

(1) A C (公共広告機構) の今後の支援見通しについて

A C の役割は大変大きいものがあった。A C のキャンペーンが終了した平成 20 年と本年のドナー登録者数を比べると、1 割程度減っている。A C の支援を希望する団体は多く、これまで長年に渡って支援を受けてきた当財団を含め、5 団体が昨年入れ替えになった。当財団としては、今後とも支援復活を要望していくつもりである。

(2) インターネット広告推進協議会の支援について

支援開始から 5 年になる。様々なサイトのホームページにバナー広告を出してもらっている。

(3) ケーブル T V の協力について

今年、A C キャンペーンの終了を受け、15 秒と 30 秒の C M 用映像を作成した。これが「ジャパンケーブルネット」と「人間ケーブル T V 」で放映され、「島根ケーブル T V 」では調整中となっている。

(4) 新聞・テレビ等への掲載について

資料に紙面のコピーが入っているが、保険会社のドナー給付についての記事や骨髄バンクに関する連載記事として、全国紙に取り上げられた。また、10 月の骨髄バンク推進月間にあたり、厚生労働省による全国紙、地方紙への突出し広告の掲載が行われたほか、テレビの政府広報番組でも複数回、P R 番組が放送された。

(5) 映画とのタイアップ

「私の中のあなた (本年 10 月 9 日封切) 」の公開に併せ、骨髄バンクの P R 入りポスターを作成していただいた他、試写会での募金等を実施した。また、「おにいちゃんのハナビ (平成 22 年 9 ~ 10 月封切) 」についてもタイアップの打合せを開始している。

- 主な意見等 -

八木澤 ACのキャンペーンにはテレビ、ラジオ、交通広告等があり、広告費に換算すると年間20億円に匹敵するといわれるものが15年程続いた。現在、骨髄バンクがこれだけ認知されているのには、この影響が非常に大きい。

一方で、認知度は高いが正確な内容についてはほとんど知らない人が多い。その点について、新聞やテレビ等のメディアに働きかけて多くの人に伝えていくのが、広報の役目だと思う。

武市 最近、暗いニュースが多いが、今日の資料にあるような内容の新聞記事は1回の掲載で終わらせないで、ぜひ多くの人に読んでもらいたい。財団としてもこの記事を多角的に活用できるのではないか。

平井 財団がこの記事を利用する場合、著作権の問題はないのか。

武市 営業活動に使うのでなければ問題ないと思う。念のため、新聞社に断りを入れればよいのではないか。

佐々木 保険のドナー給付について、財団でPRすることはできないのだろうか。ドナーさんのためになる話だ。

平井 財団で個別の保険会社のことをPRするのは、あらぬ誤解を受ける可能性もあり、難しい。しかし、新聞記事になったものを紹介するのは問題ないと思う。

横尾 財団のホームページに、こうしたメディアで取り上げられたものの一覧を載せるとよいのではないか。更に付加価値をつけるなら、その記事を書いた記者の方等にコメントをもらえるとよい。

武市 8年程前、アメリカのアイオワ大学に勉強に行った際、いろいろとお世話になったので最後に大学に寄付をしたのだが、その時、自分の名前と妻の名前を書かされた。その後、たまにアイオワ大学から寄付の依頼が来るのだが、これが私と妻の連名になっている。これはいつか私が死んだ時に、遺産の僅かでも大学に寄付してくれないかということらしい。

八木澤 募金集めも本委員会の役割の一つなので、先日「アフィリエイト募金」という仕組みを運営している会社から担当者に来てもらって話を聞いた。同席した五月女さんから説明をして下さい。

ネプロアイティ社の「アフィリエイト募金」について、資料に基づき五月女から説明が行われた

2. 海外の骨髄バンクについて

NMDP（米国）とCMDP（中国）の広報活動の状況、及びNMDP、KMDP（韓国）、CMDP、BTCSCC（台湾）のドナー登録状況について、資料に

基づき大久保部長から説明が行われた。

3. チャンス携帯版について

ホームページに掲載されている「チャンス」のフラッシュ版を、携帯版ドナーズネット用に作成する場合の費用、問題点等について、資料に基づき大久保部長から説明が行われた。

4. 新規映像素材「P B S C T」の制作について

ドナー登録者向けのP B S C T（末梢血幹細胞移植）解説ビデオの製作費用等について、資料に基づき大久保広報部長から説明が行われた。

5. インターネット等を活用した施策検討

分科会で提案された以下の施策について、大久保部長から説明が行われた。

(1) You Tube の活用

- ・ユーザーチャンネルの開設
- ・素人骨髄バンクCM募集

(2) ドナーズネット携帯版の活用

- ・ドナーズネットハンディー（ドナーズネット携帯版）について
- ・携帯メール自分事化
- ・ヘアサロン、ネイルサロンへのアプローチ
- ・メールマガジンの更新頻度向上

(3) その他インターネットの活用

- ・ブログメディアでの展開
- ・ポッドキャストの活用
- ・Bee TV の活用

(4) 企業CSRの活用と募金

- ・ADJUST CSR バナーメニュー
- ・骨髄バンク応援パートナー制度
- ・アフェリエイト募金（ネプロアイティ社）

- 主な意見等 -

立岡 携帯電話に関して20代の人に意見を聞いてみたが、ドナー登録の証として携帯ストラップを作り、登録者にプレゼントしてはどうかという意見があった。ホワイトバンドのようなイメージだ。登録をした人には誇りに感じてもらい、周りの人に対してはPRになるような、よいデザインが必要だが。

平井 「素人骨髄バンクCM募集」は動画の応募作品をホームページ等にアップして、自由に意見やコメントを書いてもらうイメージか。

太田 そうだ。マスメディアに対するパブリシティも期待できるのではないか。時間等にこだわらず自由に応募してもらえばよいと思うが、内容についてある程度のフィルターは必要だ。骨髄バンクでチェックする必要がある。

松崎 理容協会へのアプローチに関連して、「QBハウス」等、最近増えている新しい業態の企業にもアプローチしてはいかがか。若い人がずい分こちらに流れている。

立岡 「骨髄バンク応援パートナー制度」については、企業のCSRレポート作成に合わせて行った方が効果的なので、実行するなら年内に動いた方がよい。まず、ドナー休暇制度を取り入れている企業を対象とすればよいのでは。

八木澤 次回の委員会までに、各施策の費用や期間等をつめて、実行するものを決定したいと思う。ご意見等があれば、後日でも委員や事務局にメール等で教えていただきたい。

6. 今後の予定

今後の日程については平成22年2月を目処に、後日調整することとされた。